

済生会新潟 県央基幹病院の 開院に向けて



燕労災病院長
遠藤 直人

(済生会新潟県央基幹病院長予定者)

三条市長
滝沢 亮

済生会新潟県央基幹病院の開院まで5カ月となりました。
そこで、当病院院長に就任予定の遠藤直人氏と三条市長が、
病院開設の準備の状況や同時に行われている地域の医療体制の再編について対談をしました。

■これまでの
県央地域の医療提供体制

市長 県央地域で1年間に出勤する救急車の4台に1台は、新潟市や長岡市などの医療機関に患者を搬送しています。昨年、父が自宅で倒れたときも長岡市の病院に搬送され、地域外への搬送の多さを実感しました。

遠藤病院長 医療提供側の問題として、県央地域の病院はどれも200床程度の中小規模です。若い医師は大きな病院での勤務を望む傾向があるので、県央地域内で勤務する若い医師が非常に少なく、どの病院も医師不足で医療提供が難しくなっています。あわせて、医師の高齢化も進んでいます。

また、どの地域も同様ですが、今後、75歳以上の後期高齢者が増加し、高齢者に対する医療提供のニーズが高まります。

こうした中、現在、県央地域の医療再編を進めており、済生会新潟県央基幹病院を核として、地域の各医療機関がそれぞれの役割を分

に勤務し、市外から三条市に移住した看護師の方に支援金を支給する制度を今年度創設しました。既に制度を利用して三条市に来られた方もいます。

また、今年3月には、燕市や弥彦村方面からのアクセス向上のために整備した市道大島164号線が一部完成し、弥彦村から燕三条駅までの移動時間が10分短縮したと聞きました。また、完成は数年後になりますが、長岡市方面からの済生会新潟県央基幹病院へのアクセス道路となる市道上須頃262号線の改築事業に今年度着手しました。病院のある自治体として人材確保やインフラ整備の責任は果たしていきたいと思います。

10月から、市内各地での市民の方への説明会を開催します。再編される医療提供体制について詳しく丁寧にお伝えしていきます。

■開院に向けた期待と意気込み

市長

ができることで、介護や福祉も含めた地域医療の力をいかに底上げし、取り組みをスピードアップさせていくかを考える良い機会になると考えています。

遠藤病院長 救急医療、高齢者医療の課題に十分に対応できるようにしっかりと準備し、地域の皆さまに安全で安心な医療を提供してまいります。また、地域の皆さまに新しい医療提供体制をご理解いただけるよう、市と連携して発信していきます。さらに、この地域で次世代の医師を育成し、日本の地域医療のモデルと成り得る新しい病院づくりを行い、県内外に発信していきたいと思っています。

市長 次世代の医師の育成の点においては、令和7年4月に新潟県立三条高等学校に理科科とメディカルコースが開設されます。済生会新潟県央基幹病院の先生方から三所高校の生徒や市内の中学生、小学生に医師の魅力を教えるなど、将来の人材育成にも協力いただければと思います。

県央地域の 今後の医療体制について 説明します

新しくなる県央地域の医療体制と
病院の受診の仕方について説明します。
申し込みは不要です。直接会場にお越しください。

とき	ところ
10月15日(日) 午後2時	・第四中学校
10月21日(土) 午後2時	・大崎会館 ・農村環境改善センター(栄地域)
10月22日(日) 午前10時	・下田公民館
10月29日(日) 午前10時	・総合福祉センター ・三条東公民館
11月4日(土) 午後2時	・中央公民館 ・大島公民館

*時間は1時間30分程度です。



担し、相互に連携を図ることで「地域がひとつの病院」として機能することを目指しています。

市長

私の前職の弁護士の業界も同じで、若い人は大きな事務所就職したがる傾向があります。最先端の医療技術が学べる大きな規模の病院に若い医師が勤務したがるのもうなずけます。

■県央地域の

医療提供体制の再編

遠藤病院長

県央地域の医療提供体制の再編には大きく2点あります。

1 点目は、救急医療に対応できる体制を充実し、救急車が他の地域に搬送する件数を減らすことを考えています。平日の日中は済生会三条病院や新潟県立吉田病院、新潟県立加茂病院が、重症の場合や夜間休日は済生会新潟県央基幹病院が受け入れます。

2 点目は、医療機関の機能に応じた役割分担です。済生会新潟県央基幹病院では救急医療と高度で専門的な手術入院、外来に対応

し、済生会三条病院などでは高齢者の医療や軽症患者の救急、入院、外来に対応します。

市長

私は、最初は、済生会新潟県央基幹病院ができれば地域の全ての医療の問題が解決すると考えていましたし、市民の方の中にもそのように考える方がいるのではと思っています。

しかし、そうではなくて、済生会新潟県央基幹病院を中心に各病院や診療所がそれぞれの機能に応じて役割分担し、「地域がひとつの病



建設が進む済生会新潟県央基幹病院

院」として、連携して医療を提供する体制になることを、私たち行政も市民の方に伝えていきたいと思っています。

遠藤病院長

病院が対応する症状は、高度な医療技術を要するものから、少し体調を崩した程度までさまざま、それをひとつの病院で対応するには無理があります。医療再編は、それぞれの医療機関を機能に応じて役割分担し、連携して対応する体制の整備であることを、ぜひ皆さまにご理解いただきたいと思っています。

■これからの

病院・診療所へのかかり方

遠藤病院長

まず、皆さまにはかかりつけ医を持っていただきたいと思えます。少し体調を崩したときは、まずかかりつけ医で受診ください。専門的な治療が必要になったときに紹介状をもらい、済生会新潟県央基幹病院で受診いただきます。

済生会新潟県央基幹病院は基本的にかかりつけ医などからの紹介

状がある人を診療します。ただ、緊急などやむを得ないときは紹介状なしでも受け入れます。

また、これまでは救急搬送されたときには、搬送された病院で完治するまで治療を受けていました。

これからは救急で済生会新潟県央基幹病院に搬送されても、ある程度症状が落ち着いたら、地域の病院へ転院いただきます。これは「地域がひとつの病院」となる中で「少し離れた病棟」に移るイメージです。

市長

三条市では紹介状の仕組みを取っている病院がないので、市民の方の中には、紹介状が身近でないという方もいるかもしれません。済生会新潟県央基幹病院にかかるときには、緊急のときなどを除いて、紹介状が必要となることを伝えていきたいです。

今後、高齢化率が上がる中で、介護も含めた地域医療の総合力が試されます。これまで以上に、関係部門と連携していければと思っています。



遠藤病院長

1人や2人で暮らしている75歳以上で、介護してくれる人がいない方は多くいます。そういう方は一度入院するとそのまま長期入院となることが多くあります。行政と連携して施設や在宅でのケアを推進していければと思っています。

■済生会新潟県央基幹病院の

開院準備の状況と市の取り組み

遠藤病院長

来年3月の開院を見据えて救急の準備を進めており、令和4年度から燕労災病院でプレER救急を実施しています。月曜日から土曜日までの日中、救急科医が救急外来を担当し、救急隊と病院の職員、関係機関との連携の仕方を学んできました。これにより、開始以降の救急車の受入台数は令和3年度の1.7倍となりました。

また、病院の建物建設は順調で、予定どおり12月上旬に完成の見込みです。

病院で勤務する職員については、開院時に必要な看護師やその他医療スタッフは、ほぼ確保でき

済生会新潟県央基幹病院 開院するとどう変わる？

ポイント

- 1 各医療機関が役割を分担。基幹病院は救急・高度医療、地域の病院は高齢者医療、軽症患者の救急、外来に対応
- 2 まずはかかりつけ医の受診を。基幹病院での診療には紹介状が必要（一部の場合を除く。）
- 3 基幹病院で受け入れても、症状が落ち着いたら地域の病院に転院。ひとつの病院のように連携

市長

病院建設の様子はテレビやYouTubeなどで情報発信されており、市民の方も目にして安心していると思います。

開院に当たって看護師が約400人必要ということで、三条市としても、済生会新潟県央基幹病院を含めた市内の医療機関